

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼東町6-8-1		
自己評価作成日	平成24年9月3日	評価結果市町村受理日	平成24年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kanji=true&JigyosyoCd=2170500819-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家での生活の継続」を心かけ、利用者様一人ひとりの方のペースで生活される事をリハビリと考え「普通の暮らし」の維持を大切にしています。
 「地域に根ざした医療と介護を誠の心で実践します。」を理念に、医療と介護の両面から連携を取り利用者様を支える体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、利用者の方々の暮らしが、「家での生活の継続」となるように、歩く・話す・入浴する・トイレに行く等を自分の力で行うことができるよう、また、そのことが楽しみにつながるようケアに取り組んでいる。身体機能の変化により歩行が困難になっても、芝生のある中庭で茶を楽しみ、人を招く等、日々の生活に変化を積極的に作っている。移動能力の低下により活動量が減少するため、法人の専門職にも相談し、生活リハビリに取り組んでいる。ホームには、利用者、職員の笑顔や笑い声がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が必ず目にする事務所へ掲示。理念を確認出来る体制を作っている。又名札に理念を挟むことで常に確認出来るようにしている。	法人の理念に加え、「生活の場であることを常に考える」等を含んだホーム独自の理念があり、事務所に掲示している。理念に沿った支援を目指し、個別のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日曜日の朝は、職員利用者様共に、近隣清掃活動を行っている。近くのスーパーに利用者様と共に買物に行っている。	利用者・職員と地域の人々との交流が図れるように、毎週日曜日に近隣のゴミ拾いを兼ねた散歩を職員とともにしている。幼稚園児の来訪によるプレゼント交換、小学校の運動会への招待等があり、関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域住民の代表の方の出席を依頼し、施設の状況など、認知症の基本的な特徴など話すように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様も会議に交えて要望など伺う場面も設けている。又、参加したい職員は積極的に参加している。	家族の会の代表、市・地域包括支援センター職員、民生委員、自治会役員、利用者の参加を得て、2ヶ月に1回、集まりやすい土曜日に開催し、現況報告を行っている。車椅子の押し方、地域の介護の困りごと相談などもあり、今後の地域のあり方を、行政を交えて、ともに考える場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進介護を開催し、現状の取り組みについての意見交換、アドバイスを頂いている。又緊急を要する場合は、電話を活用し連絡を取っている。	市との連絡窓口は、法人が担っているが、運営推進会議で、直接会って話し合うことが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っていない。施錠に関しても基本的に行っていないが、利用者の安全上、夜間などは施錠を行っている	利用者の行動制限につながらないように、生活習慣、日頃の望み、性格等の利用者情報を集め、行動の理由の把握に努めている。また、職員の声のかけ方やケアの実践について、法人の専門職からアドバイスを受け、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活の中で、顔の表情など変化が無いかに注意し、入浴時に傷など無いか職員皆で気をつけて観察している。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	今の所該当者はいないが、必要であれば相談援助を積極的に行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族を中心に、契約書等納得されるまで説明している。又質問事項があれば電話で連絡を受けて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会を開催し意見交換をしている。玄関先に、意見箱を設置し運営のご意見を頂いている。	クリスマスと年度末に家族会を開催し、家族からの意見を聞く機会としている。家族からは、利用者の近況報告の要望が多く、毎月の便りに写真の掲載を増やすとともに、個別の情報提供も行っている。家族の面会は多く、面会時には直接話し、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われている職員ミーティングで、疑問点・意見を十分に話し合う機会を設けている。管理者と職員が話し合う機会を持つようにしている。	毎月開催する職員ミーティングで、ケアを実践する上での課題や疑問を話し合っている。職員の意見により、カーデックスシートを新規に採用し、利用者情報の共有・周知の迅速化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意とする事を把握し、考慮しながら年間業務担当を決めそれぞれ業務に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外研修の他・講演などに積極的に参加し内容に対する伝達をカンファレンス時などに行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホームと情報を共有し内容をカンファレンスなどで職員に伝えている。又、防災訓練を同一敷地内にあるディサービス、小規模と合同で行う事により協力意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人の希望を聞き介護計画書を作成、又日々の利用者とのコミュニケーションを計りながら、希望や思いを組み取るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様ご家族に、要望、希望を聞きその後も見直し介護計画を作成し、本人・家族に確認して頂き意見を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	達成目標を明確にし、個々の状態に合った介護計画書の作成に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯干し、花壇の手入れ食事作りなど生活のさまざまな事を共に行い多方面に活躍して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の新聞や手紙などで、ご様子を家族に伝えている。面会時には、最近の様子を伝えたり居室やリビングでゆっくりくつろいで頂けるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方に外泊・外出を呼びかけ出来る限り家との生活のつながりを途絶えないよう配慮している。	家族に来訪を呼びかけており、どの利用者にも面会が多い。家族とのつながりが途絶えないように、外泊・外出の支援を呼びかけ、協力を得ている。知人の面会時に、会話が繋がらない場合には、職員が代わりに対応することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、笑顔で会話され助け合って生活される場面を職員は、感謝の気持ちを伝えながら見守り、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際は、十分に話し合い今後のことも含めた相談援助をしている。退居後も気軽に相談できるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時利用者様の希望・生活・習慣などを聞き出すようにしている。又、本人の自己決定を大切に、又自己決定が難しい方は自分に置換え判断している。	利用者の行動が「自分が行いたいように」「自分で出来るように」、思いが「他者に伝わるように」と、職員は心がけている。毎日の生活の中で、本人の生活習慣や性格等を考慮し、興味を引くように話しかけ、会話等から得た情報を職員間で周知し、本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カルテにバックグラウンド、アセスメントや基本調査票をファイルし閲覧できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常生活から状態の把握に努め職員同士の相談、又医療機関への相談を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に家族。本人からアセスメントを行い、入居後も生活記録より個別の状況を把握するようにしている。	面会時や電話で家族の希望や要望を確認している。法人の専門職にも意見をもらい、本人・家族の意見を尊重し、介護計画を作成している。医療情報は受診に付き添った家族から聞き取り、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスや、申し送り時に情報を共有しケアについて話し合っている。そこでの内容を元に介護計画作成に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の行事での交流や、母体である医療機関へ相談や協力を仰ぎながら、法人全体で利用者を支えている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに出かけたり、散歩、清掃活動など地域での生活を大切にしている。近隣の花火大会では、敷地内より花火見物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関に受診。又移動が本人の負担になるような方については往診で依頼している。希望があれば以前からの医療機関で受診も可能である。又専門医の受診が必要な方は、ご家族様の協力を得て、受診をして頂いている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を選択しており、受診支援も家族が行う場合が多い。法人の内科をかかりつけ医とする場合は、職員が受診支援を行っており、通院困難になった場合は、月2回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者様の状態を把握、指導指示をし異常の早期発見に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しても今までの状況や入院に至るまでの経緯を書面として提供している。又担当者に関しても必要な情報を頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化した場合家族や本人と話し合いの場を確保今後の意向や事業所として出来ること、出来ないことを明確にする事で本人、家族が望む適切なケアが出来る体制を作っている。	入居時に、重度化した場合ホームで対応できる支援について説明している。入居後、状態が変化した場合、本人・家族の希望、医師の診断等を踏まえ、今後の方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の看護師への連絡体制の整備、又AEDを設置し、緊急時の対応が円滑に行動できるように毎年勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施・避難方法等を再確認と周知をしている。又緊急時の連絡網を作成し、協力体制を整えている。	年2回の訓練は、同一敷地内の併設施設と合同で行っている。訓練が不穩を招いてしまう利用者もあり、参加者を慎重に選んでいる。災害時の備蓄は、食品・水を3日分蓄えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などプライベートな空間に入る時などは、ノック・声かけをしている。又必要時に応じ1対1で話したりプライバシーを配慮している。	利用者一人ひとりと真摯に向き合うことを心がけており、生活のリハビリに取り組む場合も、利用者の尊厳を損なわないように、言葉、話しかける場所、誘導方法等を配慮・工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の話し方や環境設定を考慮し利用者様の気持ちを大切にじっくりと時間をかけて「待つ」心を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送りで今日の予定を話し合っている。その日の天気や、利用者の体調に合わせて1日の過ごし方を考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを知り、さりげなくコーディネートアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力にあわせ、準備・片付けを手伝っていただいている。季節の旬の素材や行事食を取り入れ提供している。	法人の他施設と同じ献立を、各ユニットの職員が調理している。利用者も本人のもつ力で参加し、談笑している。職員も同じ食事を一緒に食べている。遅番の職員は食事時間をずらし、食事のケアに専従している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、水分摂取量のチェック表を記入しない方には、形態を変えたり、食器、はし、スプーンなど自己摂取しやすいように替えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方は、洗面所へ誘導、自立を促しながら見守り、必要な部分は介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に、記入・排泄パターンを把握している。	一人ひとりの時間やタイミングを把握し、出来る限り自立度が維持できるよう支援している。退院後や体調の変化あったときは、歩行や立位を維持できるように生活リハビリを行い、トイレで排泄できるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が多いものを出来る限り提供。、日頃から水分や、運動する場面を作り、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせて、ゆっくりとくつろぎながら入浴が出来るように配慮している。	入浴は隔日を基本としており、冬期や冷え防止の目的で足浴を行うこともある。本人の体調や状況によっては2~3人の職員で対応することもあり、2ユニットの職員で、配置を考慮し、相互に助け合い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居の際、馴染みの布団、家具などを依頼し、自宅での生活に近い状態で入居して頂いている。又利用者の睡眠パターンを知りその日の活動や状態に合わせて昼寝を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際処方箋を貰い、職員は薬の作用、副作用を理解するように努めている。薬の内容が変化すれば看護師を通し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	達筆な方、絵が得意な方に掲示用ポスターの作成をお願いしたり、くす玉作りをして頂いたり、縫い物、掃除など積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーに買物に行ったり、春秋の花見・紅葉見物・運動会に出かけている。	毎週日曜日には、近隣のゴミ拾いを兼ねて散歩を行っている。暑い時期を除いては、近隣へ15分程度散歩している。日常的に、庭に出て外気浴をしている。季節の行楽にも、寝たきりの利用者を除き、併設のデイサービスの車で出かけている。	利用期間が長期化し、加齢する利用者の体力の維持管理は大変であるが、できる限り、外気浴を継続し、外出の機会をつくる取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物と一緒に出かけの際は、食材を選んだりして頂いているが、利用者様の現金は預かっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙を書かれる方は、家族に依頼し用意して頂き継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り四季を感じられるようにしている。定期的にエアコン清掃や害虫駆除を行い清潔を心がけている。	食堂を兼ねたリビングは、採光も良く開放的で、各ユニットには畳を敷いたコーナーがある。人の気配を感じながら横になることもできる長いソファが設置してある。事務所内の大きな花瓶には、季節の花が枝ごと生けられ、季節を感じることができる。年1回は、業者による清掃作業も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に、日曜日はゆとりの日とし、各居室で気のあった利用者同士コーヒーを飲まれたりソファで新聞を読まれたりそれぞれのペースで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使用された品物を出来る限り、多く持ってきて頂き、安心感を得られるように心がけている。	家族からの協力も得て、利用者の馴染みの品を搬入してもらっている。敬老の日に利用者へ渡した感謝状、交流のある園児たちからの贈り物など日々の楽しみの品も飾られている。利用期間が長くなると荷物が多くなるので、本人・家族・職員で話し合っ居心地良い空間になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせ、居室の環境面を見直したり、本人が混乱しないように、使用しないものは、家族に持ち帰るように依頼し状況に合った生活空間を提供できるようにしている。		